

看護実践・キャリア 支援センター通信

2016年

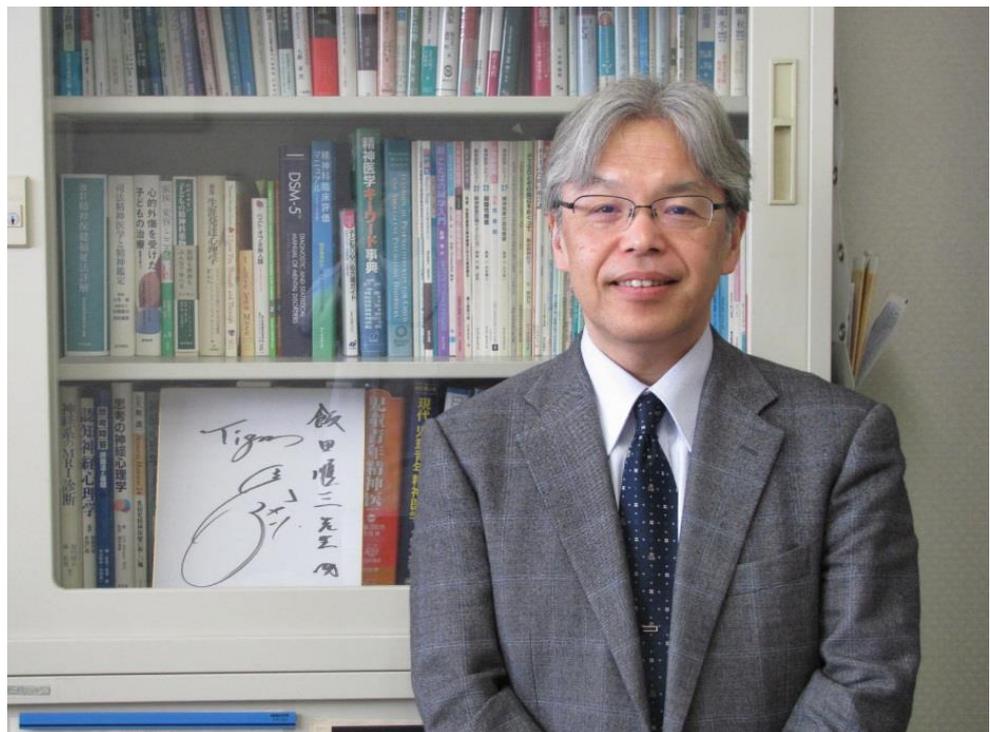
Vol.7

飯田副センター長就任挨拶

当センターの目的の一つは看護職者の生涯を通じたキャリア支援を行うことです。その中には本学学生が安心して本学附属病院で看護実践能力を高め、キャリアを積めるように卒前・卒後の一貫した教育をすることも含まれています。そのために、附属病院看護部指導者が看護学科教育に携わり、また看護学科教員が看護部指導者との協同にて学生教育を行うように本学看護学科と附属病院看護部が密に連携し、相互交流するように図られています。その中で教員と看護部との共同研究の成果も挙がりつつあります。

今後とも附属病院看護部と看護学科の協力により、看護職者の質の向上に貢献できるように努めていきたいと思えます。

(看護学科長 飯田順三)



看護実践教育

「特定行為に係る看護師研修」

今年1月より開講しています特定行為に係る看護師研修についてご紹介します。

研修生は8月からの区分別科目の実習を経て、修了したと認められた後、以下の行為が医師の指示書の範囲内で、手順書により実施することが、認定施設より認められます。実習中も研修修了後も周囲の理解は不可欠となります。皆様、温かいご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

◎急性期コース区分別科目：7区分16行為

①呼吸器（気道確保に係るもの）関連：・経口用気管チューブ又は鼻用気管チューブの位置調整

- ・侵襲的陽圧換気の設定変更
- ・非侵襲的陽圧換気の設定変更

②呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連：・人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整

- ・人工呼吸器からの離脱

③栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル）管理関連：・中心静脈カテーテルの抜去

④動脈血液ガス分析関連：・直接動脈穿刺法による採血

- ・橈骨動脈ラインの確保

⑤栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連：・持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整

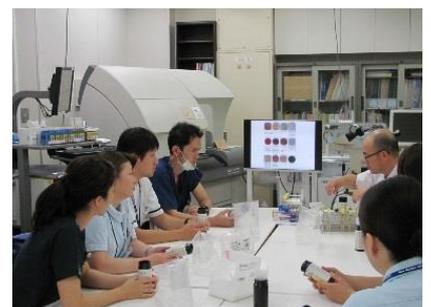
- ・脱水症状に対する輸液による補正

⑥術後疼痛管理関連：・硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整

- ・持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整
- ・持続点滴中のナトリウム、カリウム、又はクロールの投与量の調整

⑦循環動態に係る薬剤投与関連：・持続点滴中の降圧剤の投与量の調整

- ・持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整
- ・持続点滴中の利尿剤の投与量の調整



看護実践教育 「発達障害の理解と対応」研修

5月14日（土）に、「発達障害の理解と対応」というテーマで、副センター長であり、看護学科長・人間発達学教授の飯田順三先生より講義をいただきました。職場における対応が難しい人への支援について学ぶことを目標として、看護師長・主任・臨床実習指導者・看護学科教員・人事課・組合職員を対象として、開催しました。事例をあげながら具体的な対応について説明してください、受講者からは「発達障害の人への対応・理解だけでなく自分と周りの人との関係の持ち方についても多くの示唆がありました」、「まず、一人一人スタッフと信頼関係を築いていくことから行いたい」という意見も出され、好評でした。発達障害についての正しい理解と、対応の仕方についてのヒントが得られ、今後の対応が難しい人との関わり方を考え、実践することができる有意義な講義となりました。今後の職場における問題解決の一步となることが期待されます。



地域貢献 「認知症予防および認知症を持つ患者への対応力向上」研修

本研修会は、地域の看護職の皆さま及び附属病院の看護職の皆さまを対象に、6月11日（土）に開催されました。午前の部は老年看護学の教員から、檀原市における認知症予防の取組みの実際を中心に紹介し、午後の部は附属病院認定看護師の池内勝継さんから、認知症患者の理解と対応について、具体的な例を示しながら説明されました。また、事例検討を通じて様々な見解を共有し、対応力を深められたようでした。

受講者からは「実際よくある事例で考えることで、より深く理解できた」、「スタッフに伝達して今後のケアに生かしたい」「担当患者は認知症を併せ持つ患者が多く、対応に悩むことも多かった、この研修内容を現場で活用したい」など、明日からの活用が期待できる感想を多く寄せられました。



看護実践教育

「対人援助の基礎知識・技術」研修 アドバンスコース

今年度も対人援助の基礎知識・技術のアドバンスコースを、ベーシックコースを修了された看護主任を対象に5回シリーズで実施しています。9名と少数なため、活発な意見交換や、講師の橋本先生への質疑応答などで、現場で悩んでいる事例の具体的な対応方法について学ばれています。研修終了は19時半と遅いのですが、終了後も残って質問されるなど現場の主任としてスタッフを育てたい、働きやすい職場にしていきたいという意気込みが感じられます。今後この9名の主任の方々が希望されれば、昨年度同様に「グループスーパービジョン」コースを実施する予定です。

また、今年度3クール目となりますが、看護主任を対象に12月よりベーシックコースを開講予定ですので、ご興味のある主任方は是非お問い合わせください。お待ちしております。

コラム ヨガの効能

門脇先生に、ヨガについて語っていただきました。

心を軽くして楽々動く、調身・調息・調心より、健康な体を保つには心の健康も大切です。

ストレスを解消して、疲れた心を癒します。楽に無理なく、気持ち良く動くと大きな息が腹に入ります。すると、肩の荷がおりて心が軽くなり解放感を得ます。

日常の不安、動揺を軽くし今まで以上に元気と安らぎを実感していきます。ヨガは、体が根本にあり、体を整えれば、息が整い、自ずと心が楽になり、軽くなります。心が静まると、心を眺めることが出来始めてきます。心が軽くなり、体もさっと動き出し、楽にしなやかに動きます。 合掌

今年度開催される研修（詳細はホームページを見て確認して下さい。）

研修名	開催日	募集期間
がん看護研修	9/17、10/15、11/12、12/10、1/12	7/5 ~ 7/18
明日から使える褥瘡予防・治療の知識と技術研修	2/4 2017年	12/5 ~ 12/16

講演会のお知らせ

看護学科学生へのキャリアデザインプログラム事業講演会 講演タイトル未定

講師：京大病院 看護部長 秋山 智弥氏

日時：平成28年11月30日(水) 17:30から 場所：大講堂

開始時間を遅めに設定しました。現役の男性看護師の方々の参加をお待ちしています。

日程が近づきましたら、募集案内をさせていただきます。

編集後記

切れ目のないキャリア支援を目的に、看護実践・キャリア支援センターのスタッフは4月から一新されました。冒頭でお知らせしたように、副センター長に飯田先生が就任されました。また、旧教育支援室の皆様が加わったほか、学科とは別に講師の渋谷先生が就任されました。

今後とも、看護実践キャリア支援センターにご支援をお願いします。